

『育じい・育ばあ』のための『ほめほめ講座』

感謝・信頼・思いやりの心・無償の愛が
いつまでもつながるように

この講座(連載)は、4コマ漫画を通しておじいさんやおばあさんの目線で佐渡の未来を築く子どもたちへのかかわりについて、昨年4月号から連載し、12回にわたり「子どもの良いところをほめる、簡単な生活の中のルールを知らせる、短い言葉で具体的に分かりやすく伝える」など、子どもたちの心を育てるための大切なポイントをお知らせしてきました。

子どもが「自分は大事にされている」と感じながら成長していくには、育じい・育ばあの役割は重要です。今どきの子育ては、育じい・育ばあの現役時代と違う感じがしているかと思いますが、子どもを大切に思う心は同じです。親として未熟なパパ・ママの応援団として、もうひと踏ん張りをお願いします。

市では、昨年生まれた赤ちゃんがとうとう300人を割ってしまいました。子ども若者相談センターでは、これからも佐渡の大事な宝である子どもたちを大切に育てていけるよう、子育て相談などさまざまな事業を通して子育てがしやすいようにお手伝いをさせていただきます。

市民福祉部子ども若者課 子ども若者相談センター
☎58-8077



市立病院から 田中 こんにちは

両津病院
小林 良太 先生
診療科目/内科

友人の死と、別れの会のこと

少し歳の離れた大切な友人が亡くなりました。

闘病1カ月弱でのあつという間の死でした。関西出身の彼は縁あって暮らすことになった佐渡を気に入りました。都会でプロの演奏家として活躍してきた人なのに、派手な暮らしを好まず、佐渡では好きな仕事を続けつつ音楽は趣味として、地に足のついた生活を送っていました。そんな彼を慕う仲間も少なくありませんでした。

昨年12月に弱って入院し、当初、ベッドでブルックナーを聞き三国志を読んでいたが、まもなく体調が悪化し、そのまま月末に亡くなってしまいました。清貧を貫いた彼には、葬儀を執り行う余裕はありませんでしたが、仲間たちは知恵を出し、火葬場で小さな送る会を開きました。感謝の言葉を述べた後、仲間たちが素晴らしい生演奏で彼を送り出しました。質素ではあるが、あたたかな空気が流れる素敵な会でした。

身近な人が亡くなると、自分もいざれ死ぬという当たり前のことを改めて意識させられます。お世話になった彼に、恥ずかしくない生き方をしたいと思った大晦日の別れでした。



今回は両津病院の霍間先生です。